

学校配置の適正化の今後の進め方について

教育委員会事務局

学校配置の適正化のための基本方針の概要

- ・教育委員会は学校適正配置対象校について、その適正化をはかるため、統合又は校区の変更による学校再編整備計画を策定し、公表する。
- ・学校再編整備計画には、活用する学校施設及び改修等の計画、学校適正配置の時期、スケジュールなどについて記載する。
- ・教育委員会は学校再編整備計画を当該学校関係者や地域住民に説明し、意見を聴くため、学校設置協議会等を組織する。
- ・学校設置協議会等の委員は、校長及び区長の意見を聴いて、教育委員会が任命する。
(保護者、地域住民、学校協議会委員、その他、各学校5名以内の定数、任期は2年)
- ・学校設置協議会等の所掌事務
(学校再編整備計画への意見、学校名案、校歌及び標準服等の決定、その他意見) など

現行の協議の進め方

第1段階【合意形成】

- ・統合協議会において統合に向けた課題等の整理
- ・保護者説明会の開催

第2段階【最終合意】

- ・合同の統合協議会等の立ち上げ・協議
- ・統合時期、今後の進め方等の課題整理・承認

第3段階【統合】

- ・校名、校歌、校章、通学路の安全対策等の検討・決定



ルール策定後の協議の進め方

第1段階

- ・教育委員会が学校再編整備計画を策定・公表

第2段階

- ・学校適正配置検討会議の開催
- ・計画に対する意見聴取

第3段階

- ・校名、校歌、校章、通学路の安全対策等の検討・決定

児童生徒の教育環境の改善を進める観点から手続きをルール化し、円滑な学校配置の適正化を実現

生野中学校区並びに田島中学校区における学校再編整備計画の策定

両中学校区の先送りにできない状況も踏まえ、学校配置の適正化のための基本方針に基づいて、以下のとおり再編方針を策定。児童生徒の教育環境の改善に向けた学校設置協議会を設置し、地域保護者への参加を求め、話し合いを進める。

生野中学校区の再編

- (1) 再編対象とする学校
中学校：生野中学校
小学校：林寺小学校、生野小学校、舍利寺小学校
（生野中学校を進学先とする地域）、
西生野小学校
 - (2) 新たな学校の設置場所
現在の生野中学校並びに西生野小学校の校地に設置
 - (3) 新たな学校の開校時期
令和4年4月1日
 - (4) 新たな学校開設に向けた施設整備
不足教室数の確保等のため校舎を増築
 - (5) その他
義務教育学校として開校
※大教大との連携を予定
- ◆ 現学校の取扱い
義務教育学校が新たに設置されることに伴い、再編される中学校及び小学校はすべて閉校とする。

田島中学校区の再編

- (1) 再編対象とする学校
田島小学校、生野南小学校
 - (2) 新たな学校の設置場所
現在の田島中学校の校地に設置
 - (3) 新たな学校の開校時期
令和4年4月1日
 - (4) 新たな学校開設に向けた施設整備
不足教室数の確保等のため校舎を増築
 - (5) その他
施設一体型小中一貫校として開校
※大教大との連携を予定
- ◆ 現学校の取扱い
再編される小学校はすべて閉校とする。

- ◆ 学校の再編整備を契機とした児童生徒の教育環境の改善
◆ 学校配置の適正化のための基本方針の規定化

生野義務教育学校(仮)のめざす教育

産官学連携で「未来を生き抜く力」を育てます！

① まちに学び、まちで育つ「IKUNO未来科」

行政が区内の企業・大学をつなぎ、サポートを得て学習活動を展開し、「探究する力」（対話したり調べたりして疑問や課題を解決していく力）を養います。
もと小学校でまちに開いた学習報告会を予定。
「仕事」の視点で9年間の学びを積み重ね、自分で「進路の可能性を広げられる子」を育てます。



② 大阪教育大学と連携した集団育成

63ヶ国の人が暮らす多文化共生のまち・生野区の学校として「他者を理解し受け入れる」「価値観の違う他者と協働する」プログラムを実施し、異文化理解・他者理解を進めます。また、一人一人の良さ引き出しつなげ、「ものごとを成し遂げる力」や「最後までやり遂げる力」を養成します。

③ ICT環境の充実とタブレット・PCを活用した「基礎学力の定着」



低学年はタブレット、小3からキーボード付きの端末を用いて、社会で使いこなすためのICT教育を展開。探究する力を養う学習や論理的思考を養うための学習、「一人一人の理解の度合いに応じた基礎学力の定着」に活用します。 4

田島小中一貫校(仮)のめざす教育

小中一貫で「生き抜く力」を養う教育活動を根幹に！

①子ども同士の気づきと対話で作る「生きる」教育

生野南小学校の「生きる」をテーマとした性・生教育や田島小で取り組むプログラミング教育、田島中で実施しているキャリア教育等を系統立ててカリキュラム化し、「考える力」「判断する力」「自分の言葉で伝える力」を育て、9年間で時代の変化に応じた「未来を生き抜く力」を育てます。



②小中の教職員・専門職・区内企業・団体・地域による「チーム学校」

小学校高学年からの教科担任制や小中一貫した英語教育など、小中学校の教員が連携し、外部人材や専門職も積極的に活用した「チーム学校」を実現。プロの芸術家や職人など「本物」に触れる・関わってもらう授業づくりを行います。

③ICT環境の充実とタブレット・PCを活用した「基礎学力の定着」



低学年はタブレット、小3からキーボード付きの端末を用いて、社会で使いこなすためのICT教育を展開。英語の多聴多読や論理的思考を養うための学習、「一人一人の理解の度合いに応じた基礎学力の定着」に活用します。